

難病乳児安楽死巡り議論

英病院「回復見込みない」

【ワシントン山本太一】深刻な難病で生命維持装置をつけている英国のチャリー・ガード君(生後11カ月)の治療を続けるかどうかは世界の注目が集まっている。回復見込みがないとして地元の病院は安楽死を提案したが、両親は拒否し、米国で治療を継続することを模索。3〜4日、トランプ米大統領やバチカンが両親への支援を表明したことで、さらに関心が高まっている。

英メディアなどによると、チャリー君はロンドン在住のクリス・ガードさん(32)、コニー・イーツさん(31)夫妻の長男として2016年8月に誕生。まもなく先天性の

両親拒否に米大統領賛同



「ミトコンドリアDNA枯血症候群」と診断された。細胞が正常に機能しないため内臓や筋肉の形成が難しく、脳にも深刻な損傷を負っているという。

16年10月から治療を続けて

いる病院は「やるべき治療は全てやった」とし、両親に生命維持装置を外して安楽死を受け入れるように提案した。病院は裁判所に安楽死の許可を申請し、欧州人権裁判所は今月6月、治療継続は「さらなる苦しみを与える」として安楽死を認める決定をした。両親がチャリー君を国外に渡航させることも禁じた。

これに対し、両親は「命が尽きるまであきらめないのが私たちができる唯一の務め」と安楽死を拒否。国外も含めた受け入れ先を探し、米国の医師を見つけた。医師は、治療としてチャリー君の体内で生成できない物質を経口投与して治療を望んでいるロンドンで9日、ロイター

与すると約束したという。両親は治療費や渡航費を募るため、ネットサイトを設置し、130万ポンド(1億9000万円)以上の寄付を集めた。

トランプ氏は今月3日、「もし私たちが助けることができたら喜んでそうしよう」とツイートを。ホワイトハウスは政府職員が両親と連絡を取っていると明らかにした。

さらに、フランシスコ・ローム法王が、両親が最期まで子どもに寄り添い治療にあたることを認めるべきだと主張。バチカンが運営するローマの小児病院は4日、受け入れを表明した。しかし、ジョンソン英外相は裁判所の渡航禁止命令を理由に小児病院への転院は「できない」としており、当面は地元の病院での治療が続く見通しだ。

チャリー君の両親。英病院の安楽死提案を拒み、渡米して治療継続を望んでいるロンドンで9日、ロイター